

岩手医科大学

オープンキャンパス



主な内容

特集—— オープンキャンパス2023開催

トピックス—— 市民公開講座が行われました

募金状況報告

フリーページ—— すこやかスポット医学講座No.112
「遺伝学的検査とその取扱について」

表紙写真：4年ぶりに実施した来校型オープンキャンパス
(関連記事P.2-5)

特集



オープンキャンパス 2023開催

8月5日(土)・6日(日)、矢巾キャンパスで4年ぶりとなる来校型のオープンキャンパスが開催され、高校生や保護者等、2日間で952名が参加しました。本稿では、当日の様子を写真を交えて紹介します。

オープンキャンパス 2023

8月5日(土)・6日(日)の両日、矢巾キャンパスでオープンキャンパス2023が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生や保護者など952名が参加しました。

4年ぶりとなる来校型のオープンキャンパスは、酒井副学長による大学紹介や各学部紹介・体験実習のほか、在学生とのフリートーク、教職員による進学相談、学生寮の見学等、学内スタッフ総勢286名の協力のもと、盛りだくさんの企画が用意され好評を博しました。参加した高校生らは、大学生生活に夢や希望を膨らませていた様子で、将来の進路を決めるための有意義な機会となったようです。

■ タイムテーブル

	医学部	歯学部	薬学部	看護学部	共通
10:00					E 大学紹介 10:15~10:30
11:00	E 学部紹介 10:50~11:10 E ミニ講義 11:20~11:50	A 学部紹介 10:50~11:10 A ミニ講義 11:20~11:50	H 体験実習①~③ 10:50~11:10	A 学部紹介 10:50~11:10 A ミニ講義 11:20~11:50	C キャンパスツアー 在学生とのフリートーク D 図書館公開 H キャリア支援センター公開 I 薬用植物園見学 J 学生意見学会
12:00					
13:00	G 体験実習② F 体験実習③	A 体験実習①⑫	A 学部・入試紹介 13:00~14:00 A 在学生ライブトーク 14:05~14:35 A 薬学部個別相談 14:40~15:00	G 体験実習① 体験実習② 体験実習③ 体験実習④ 体験実習⑤	B 進学相談 13:00~15:00
14:00					
15:00					

■ WEB オープンキャンパス (常時公開中)

実際に大学に足を運ばなくてもご自宅でキャンパスを見ることができ、各学部の魅力を感じることができる「WEB OPEN CAMPUS」を常時公開しています。

公開コンテンツは「①大学紹介」「②学長メッセージ」「③学部紹介」「④キャンパスツアー」「⑤STUDENT VOICES」「⑥キャンパスライフ」「⑦学生フリートーク」「⑧部活・サークル紹介」「⑨キャンパス周辺探索」「⑩ドクターヘリ紹介」「⑪個別相談」「⑫入試紹介」「⑬保護者対象講演会」「⑭資料請求」が用意されています。個別の質問フォームやZoomや来学での個別相談受付も行っております。



イベント紹介

当日は多くのイベントが用意され、多くの方々にご参加いただきました。イベントの一部について、当日の様子や概要を参加者の声とあわせてご紹介します。

■ 大学紹介

オープンキャンパス当日の最初のプログラムとして、酒井副学長が「岩手医科大学 - 歴史と現在 - 」と題して講演を行いました。医療系総合大学としての特徴、充実した施設・設備・環境について詳しく説明があり、両日とも 300 名程度の方々に参加しました。



参加者の声

- 岩手医大の魅力に惹きつけられました。ここに入学したいと思いました。
- どのような事を学ぶことができるのかを理解できた。また、どのような人材を育てていきたいかが明確に示されていたのでとても良かったと感じた。

■ 学部紹介 (医学部)



学部選びを迷っている受験生や、学部の特徴をもっと知りたい学生に向け、各学部の学びの特徴を紹介しました。医学部では佐々木医学部長から、教育内容やカリキュラムについて説明があり、参加者は医学部の魅力について理解を深めました。

参加者の声

- 東京都から来たが、医学部の教育体制やカリキュラムをより知ることができたので来てよかったと実感し、校内の雰囲気を実際に体験できたことも良かったと思います。

■ 学部紹介 (歯学部)

歯学部では、初日は補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野の小林琢也教授、2日目は口腔保健育成学講座歯科矯正学分野の佐藤和朗教授から、歯学部の学位授与方針やカリキュラム・マップについて説明があり、参加した生徒は本学で学ぶ意欲を高めました。



参加者の声

- 中学の時に医大祭に参加し、学校の方々の雰囲気が大変よく、これまで受験しようと思ってきました。この度、参加させていただき、普段できない貴重な体験ができ、一層専願で入学したいと確信しました。

■ 体験実習 (薬学部)



学内にある実際の薬局さながらの模擬薬局で、患者様が薬を安心して使用できるよう、薬剤師は日常的にどのような仕事をしているのか、散剤や軟膏の調剤体験や注射剤の調剤見学などを体験しました。

参加者の声

- 実際の薬品を使って調剤などを試してみ、今までテレビでしか見たことなかったことを自分でやることのできたので、すごく良かったです。たくさんの事を経験させていただきありがとうございました。

体験実習（看護学部）



看護師に必要な観察技術（聴診・触診）を最新のシミュレーターを用いて、実際に心音や呼吸音を聞く体験を実施しました。参加者は各コーナーで、担当教員、学生スタッフに教えてもらいながら、楽しそうに体験する姿が見られました。

参加者の声

- 学生、先生方の対応がとてもよく、たくさんの体験学習をすることができました。質問した際も、詳しく丁寧に答えていただき、学びを深めることができました。
- 実習の内容が濃いと聞いたので、臨床現場の雰囲気を知れるのかなと思い参加しました。助産師になりたいという夢がふくらみました。

図書館公開

岩手県内の図書館と連携した企画展示や、本学1年次に使用している教科書の展示を行いました。また、自習や学修のためのスペースも紹介。来館者にはオリジナルのしおりのプレゼントがあり、大変好評でした。

参加者の声

- テキパキと案内してくださりスムーズに移動できました。
- 普段中々見ることのできない部分を細部までみることができました。



薬用植物園見学



薬用植物園では、漢方薬や生薬の原料となる植物やハーブが栽培されています。学生スタッフが解説を交えて来場者を案内し、各植物の特性や用途について詳しく説明しました。

参加者の声

- 薬用植物園見学がとても楽しかった。説明が分かりやすくて面白かった。
- もっと色々な種類を知りたいと思いました。

学生寮見学

普段はなかなか見ることができない学生寮。食堂、居室、大浴場といった主要施設も含めてご覧いただきました。見学した方々は快適で安全な環境が整っていることを実感され、特に初めての一人暮らしに不安を感じている方も、このイベントで安心を得られた様子でした。

参加者の声

- より入学したいという気持ちが高まりました。
- スタッフの方がとても話しやすかったです。



在学生フリートーク



各学部の学生スタッフが入学試験に向けての勉強方法や普段の授業、アルバイト、サークル活動などの学生生活に関する参加者からの質問に親身になって答えていました。

参加者の声

- 岩手医大に初めて来てみて、設備がしっかりしていて多くのことが学べることが分かりました。
- スタッフの方が優しく丁寧に、大学のことを知ることができました。

フォトアルバム



受付



キャンパスモール



キャリア支援センター公開



内視鏡外科手術模擬体験



超音波（エコー）検査体験



体験実習「歯を削ってみよう！」



無菌調製見学



看護学部体験実習ブース



進路相談

総括

毎年開催してきたオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年から2022年はウェブ上で開催してきました。しかし、今年は来場型のオープンキャンパスを再開し、皆様のご協力により、多くの来場者を迎えることができました。参加された方々には、ミニ講義や体験実習、在学生との交流を通して、ウェブサイトやパンフレットだけでは伝えきれない本学の魅力を体験していただきました。

一方で、18歳人口の減少に伴い、国公立を問わず多くの大学において志願者の確保が喫緊の課題となっています。本学では、オープンキャンパスを戦略的な学生募集活動のひとつとして位置づけており、貴重な対面広報の機会を最大限に活かすため、今後も過去の入試結果や受験生の動向を分析し、学生や社会のニーズにあわせた広報活動を積極的に進めていきます。

来年に向けては、今年度のオープンキャンパスで好評だった在学生と直接会話できるイベントを拡充し、医・歯・薬・看護学部の医療系4学部が同一キャンパスに集う本学ならではの連携教育をアピールできる新たな企画も検討していきたいと考えております。

最後に、オープンキャンパスにご協力いただいたすべての方々、そして参加してくださった学生と保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後とも、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

市民公開講座が行われました

今年、41回目を迎えた市民公開講座（テーマ：高齢社会を支える医療—新興（再興）感染症の時代を生きる）が、8月1日（火）から3日間にわたり矢巾キャンパス大堀記念講堂で行われました。

今年の市民公開講座は、5講座が開講され、延べ666名の方々が受講しました。受講者は熱心に聴講し、貴重な学習の機会となったようです。

8月1日（火）

「パンデミックに負けない 身体と呼吸」

医学部内科学講座呼吸器内科分野
長島 広相 特任准教授



8月2日（水）

「超高齢化社会を支える 脳神経内科のお仕事」

医学部内科学講座脳神経内科・老年科分野
前田 哲也 教授



「口腔細菌と全身疾患の関わり」

歯学部微生物学講座分子微生物学分野
石河 太知 教授



8月3日（木）

「薬が効かない！健康長寿に 危機をもたらす薬剤耐性」

薬学部臨床薬学講座情報薬科学分野
西谷 直之 教授



「高齢者が自分らしく 最期まで生ききる為に」

看護学部地域包括ケア講座
野里 同 准教授



大堀記念講堂で行われた市民公開講座

放課後等デイサービス施設「いくはぴ」を利用する 児童らがドクターヘリ基地を見学しました

8月3日（木）、一般社団法人優輝が運営する放課後等デイサービス「いくはぴ永井教室」の児童ら14名がドクターヘリ基地を見学しました。

小学1年生から高校3年生までの児童を療育するこの施設では、普段から施設見学等の数多くの体験会を企画し、今回はドクターヘリ基地の見学会が行われました。当日は岩手県高度救命救急センターの小守林講師が基地の案内や役割等の説明を行いました。普段間近で見ることができないドクターヘリを前に、児童らは目を輝かせていました。

また、8月9日（水）には「いくはぴ都南教室」の児童ら16名が訪れ、同じく小守林講師が対応しました。



ドクターヘリ見学

久慈市立長内中学校の生徒が班別進路研修で 医療専門学校を訪れました

8月31日（木）、医療専門学校で久慈市立長内中学校の班別進路研修が行われ、生徒4名が来学しました。この研修は、中学3年間のキャリア教育の一環として位置づけ、進路意識を高めることを目的に行われています。医療専門学校での研修は今年で3年目となります。

研修は、医療専門学校教員が学校紹介、施設見学、実技体験等を行いました。終了後、生徒らから「今日学んだことを忘れず、今後の学習に活かしたい。私たちのために貴重な体験をありがとうございました」と感謝の言葉が述べられました。



生徒らに指導する教員

防災週間に伴う防災訓練が行われました

9月1日（金）、矢巾キャンパスにおいて、防災週間に伴う防災訓練が行われました。毎年9月1日は防災の日、8月30日～9月5日は防災週間と中央防災会議（内閣総理大臣を長とし内閣府に事務局を置く会議）によって定められ、全国的に防災知識普及のための講演会や展示会、防災訓練が行われます。防災週間に伴う防災訓練は、本学では初の取組となります。

当日は、矢巾キャンパス防火・防災管理者と主に事務局職員により構成される矢巾キャンパス自衛消防隊や看護部が参加し、救出作業資機材取扱訓練、傷病者搬送訓練、一次救命処置訓練や非常食の展示等が行われました。

訓練参加者は楽しい雰囲気の中、熱心に取り組み、災害対応への知識を深めていました。



傷病者搬送訓練（イーバックチェアー）



傷病者搬送訓練（エアーストレッチャー）



一次救命処置訓練

岩手医科大学秋季卒業式が挙行されました

9月5日（火）、大堀記念講堂において、令和5年度岩手医科大学秋季卒業式が挙行され、卒業生および薬学部教員に加え保護者の方々にも出席いただきました。

式では、薬学部の卒業生24名を代表し、山下菜穂さんに祖父江学長から卒業証書・学位記が授与されました。続いて卒業生に対し祖父江学長は「患者さんに寄り添える心優しい薬剤師になってほしい」と式辞を述べました。

式終了後、河野薬学部長から卒業生一人ひとりに卒業証書・学位記が授与されました。



祖父江学長式辞



卒業証書・学位記授与



卒業生集合写真

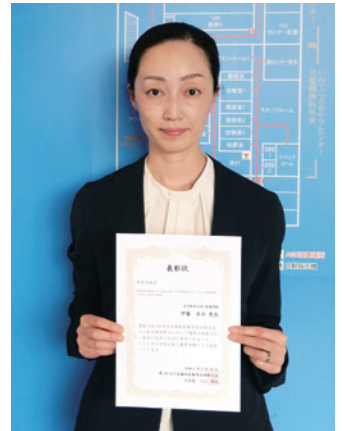
表彰の栄誉

共通基盤看護学講座の伊藤 奈央 講師が 日本緩和医療学会学術大会で優秀演題賞を受賞しました

この度、第28回日本緩和医療学会学術大会（6月30日～7月1日、神戸市）において、演題「実装科学研究の方法論を用いた患者報告アウトカムの臨床導入方法の開発と検証」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。

患者報告アウトカム（Patient-reported outcome：PRO）とは、評価尺度を用いて身体・心理的な症状を患者に直接尋ね、主観的な評価を測定する指標です。臨床で当たり前のように思われるPROですが、適切な導入方法は示されておらず、緩和ケア領域における活用は十分でないことが報告されています。本研究では、複数の緩和ケア病棟を対象施設としてPROの導入方法を開発・検証しました。研究の成果として、導入に伴う障壁への丁寧な対応や医療者への継続的な支援によるPROの浸透、導入の有効性が確認されました。今後も、緩和ケアの質向上に貢献できるよう研究に尽力する所存です。

最後に、本研究にご協力いただいた皆様方、日頃よりご支援・ご指導いただいている先生方に深く感謝申し上げます。



（文責：共通基盤看護学講座 講師 伊藤奈央）

神経精神科学講座の吉岡 靖史 助教が 日本児童青年精神医学会において Best Poster Award を受賞しました



八木教授、吉岡助教

この度、The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (ASCAPAP) 2023 において、「A longitudinal study of the relationship between mental health of parents and problem behaviors of children born after the Great East Japan Earthquake」という演題をポスター発表し、Best Poster Awardを受賞しました。

本研究では、東日本大震災後1年間に誕生した子どもの情緒や行動上の問題と親のメンタルヘルスを縦断的に調査し、その結果、津波被害が甚大であった沿岸地域において、東日本大震災から5年以上経過後も親のトラウマ症状は持続しており、それが子どもの問題行動と関連していることを報告しました。今回の研究で得た知見をもとに今後さらに詳細な解析や検証を行い、被災地支援に役立てたいと思います。最後に、ご指導賜りました八木教授はじめ、研究にご協力頂きました、いわてこどもケアセンターのスタッフの皆様方ならびに当科の先生方に、この場をお借りして深謝申し上げます。

（文責：神経精神科学講座 助教 吉岡 靖史）

神経精神科学講座の本多 笑奈 助教が 日本精神神経学会学術総会において神経精神学雑誌投稿奨励賞を受賞しました

この度、第119回日本精神神経学会学術総会において、私たちの研究「子ども時代の逆境体験（ACEs）と産後1ヶ月時のエジンバラ産後うつ病質問票（EPDS）に関する後方視的調査」が神経精神学雑誌投稿奨励賞（学術総会部門）を受賞することができました。このような栄誉を頂き、大変喜ばしく思っております。

母親が子ども時代に被虐待や機能不全家族内での生活といった逆境体験（ACEs）を経験している場合、成人期のさまざまな精神疾患と関連があることが報告されています。今回の発表では、当院の精神科外来通院中の妊産婦を対象とした調査結果をもとに、母親のACEsが産後の抑うつ状態、特に希死念慮と関連があることを報告しました。周産期のメンタルヘルスの重要性が増してきている現在、この研究成果が評価されたことは大変意義深いと感じております。

（文責：神経精神科学講座 助教 本多 笑奈）



本多助教、福本准教授

表彰の栄誉

内科学講座消化器内科分野の藤原 裕大 研究員が 日本超音波医学会で奨励賞を受賞しました



黒田特任教授、藤原研究員、松本教授

この度日本超音波医学会第96回学術集会において、「超音波エラストグラフィと減衰量イメージングによるNAFLDのイベントリスク予測の試み」の題名で奨励賞を受賞いたしました。

実はこの奨励賞は、2018年にも応募し最終発表の場で受賞出来なかった悔しい経験があるので、5年越しでリベンジできたことが大変嬉しく思います。大学院の研究として「脂肪肝における超音波減衰を定量化することで、組織学的肝脂肪化評価を行えないか？」といったテーマでこの研究はスタートしました。このテーマは、黒田英克先生のご指導の下、GEヘルスケアとの共同研究で、世界中でアプリケーション化及び商品化され、本邦でも『超音波減衰法』として保険収載されるまでに至っています。基礎的な研究が臨床応用まで結びつくことの面白さを、身をもって経験することができました。

最後に、ご指導いただいた黒田特任教授、松本教授、中央臨床検査部、病理診断学講座の先生方に感謝いたします。

(文責：内科学講座消化器内科分野 研究員 藤原 裕大)

大学院歯学研究科博士課程3年生(口腔外科学)の池田 裕之介 先生が 日本口腔科学会北日本地方部会で新人賞を受賞しました

第59回日本口腔科学会北日本地方部会で口演発表した「埋伏下顎第三大臼歯に関連するう蝕と歯根吸収についてのX線学的検討」という研究で、令和4年度日本口腔科学会新人賞を受賞いたしました。受賞に際して、御指導賜りました山田教授、藤村教授、泉澤准教授、小川准教授、歯科放射線学分野と当分野の先生方に感謝申し上げます。

埋伏下顎第三大臼歯は、隣在する下顎第二大臼歯のう蝕や歯根吸収の原因となることが多く、病的状態となった下顎第二大臼歯が抜去されることもあります。パノラマX線画像とCBCTの解析結果から、埋伏下顎第三大臼歯は、深在性で近心傾斜する場合、あるいは下顎第二大臼歯の歯根と広範囲に接する場合に下顎第二大臼歯の病的状態を惹起する可能性が高いため、その予防的抜去が推奨されることが判明いたしました。

最後に、これからも本賞を励みに臨床と研究に邁進してまいります。



小川准教授、池田先生、古城特任講師

(文責：大学院歯学研究科博士課程 池田 裕之介)

大学院歯学研究科博士課程3年生(口腔外科学)の矢菅 絵里加 先生が 日本口腔科学会北日本地方部会で新人賞を受賞しました



小川准教授、矢菅先生、山田教授

この度、第60回日本口腔科学会北日本地方部会でポスター発表した演題「埋伏上顎第三大臼歯による上顎第二大臼歯の歯根吸収についてのX線学的検討」で令和5年度日本口腔科学会新人賞を受賞いたしました。身に余る光栄な賞を頂戴し、誠に感動しております。

埋伏上顎第三大臼歯は、隣在する第二大臼歯の歯根吸収の原因となることが多く、病的状態となった第二大臼歯が抜去されることもあります。本研究では、パノラマX線画像と歯科用コーンビームCTの所見から第二大臼歯の歯根吸収の発症危険因子を分析しました。その結果、第二大臼歯側に傾斜する深い埋伏歯や第二大臼歯の歯根と広範囲に接触する第三大臼歯が危険因子として抽出され、これらを予防的に抜去することが健全な上顎第二大臼歯の維持に有用である可能性が示唆されました。

最後に、御指導賜りました山田教授、小川准教授はじめ、歯科放射線学分野の泉澤准教授、当科の先生方に厚く深謝申し上げます。

(文責：大学院歯学研究科博士課程 矢菅 絵里加)

1. 役職者の選任について

歯学部長 小林 琢也（新任）

（任期 2023年10月1日から2024年3月31日 前任者の残任期間）

2. 教員の人事について

医学部内科学講座呼吸器内科分野 教授

川田 一郎（現 慶應義塾大学保健管理センター 准教授）

（発令年月日 割愛の状況による）

3. 岩手医科大学学則の一部改正について

2024年度の医学部入学定員等の臨時的な増加の取扱いについて、これまでと同様に35名（岩手県地域枠）の臨時定員増を行う旨、5月開催の本理事会において法人としての意思決定がなされたことから、収容定員を変更することとし、学則の一部改正を承認した。

（施行年月日 2024年4月1日）

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第15回目のご芳名紹介です。(令和5年6月1日～令和5年7月31日)

■ 法人・団体等 (1件)

<ご芳名のみ>

株式会社 星医療酸器 (岩手県盛岡市)

■ 個人 (2件)

<22,163,571>

福田 幸 (一般)

<ご芳名のみ>

山本 和博 (教職員)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	385	198,128,220
在 学 生 ご 父 母	282	74,530,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	38	42,570,000
教 職 員	40	6,720,000
一 般	21	483,952,572
法 人 ・ 団 体	227	141,755,481
合 計	993	947,656,273

(令和2年9月1日～令和5年7月31日現在)

■ 福田 幸様からの遺贈寄付

この度、故 福田 幸 (ふくだ みゆき) 様の遺贈に基づく金22,163,571円のご寄付を賜りました。寄付金は学術振興資金として教育・研究・診療活動に有効に活用させていただき、福田様のご遺志と遺族の皆様のご厚情とご期待に報いる所存でございます。格別のご支援に厚く御礼申し上げます。

社会貢献の気運が高まる中、税制上の優遇措置を受けることができる学校法人への「遺贈寄付」と「相続財産からの寄付」が広がりを見せています。ご相談の際は、法人事務部企画調整課 (内線5436、5437) までお問い合わせください。

創立120周年記念事業募金

第53回目のご芳名紹介です。(令和5年6月1日～令和5年7月31日)

■ 法人・団体等 (1件)

<1,000,000>

医療法人 杏仁堂
(長野県上田市)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
圭 陵 会	1,113	673,045,089
在 学 生 ご 父 母	933	548,622,000
役 員 ・ 名 誉 教 授	103	127,720,000
教 職 員	270	36,372,000
一 般	148	50,285,010
法 人 ・ 団 体	411	1,298,404,000
合 計	2,978	2,734,448,099

(平成26年6月1日～令和5年7月31日現在)

テナント紹介

矢巾・内丸キャンパスには多数の店舗が入店し、教職員、在学生、患者さん等へ様々なサービスを提供しています。身近だけど意外と知らなかった各テナントの紹介、おすすめやお得情報を掲載していきます。第6弾となる本号では、ローソン岩手医大病院店とケア・テック岩手医大介護ショップ内丸をご紹介します。

ローソン岩手医大病院店 (矢巾トクタヴェール1階)

「ほっと発見! ほっとうれしい! ほっとやさしい!」
お客さまが「ほっ!」とできるお店を目指しています。
皆さまのご来店、心よりお待ちしております!

お得な情報はこちらから!



マチのほっとステーション
LAWSON



営業時間 年中無休 / 7:00 ~ 21:00
(大学IDカードお持ちの方は、24時間利用いただけます。)

TEL 019 - 601 - 5688

ケア・テック岩手医大介護ショップ内丸 (内丸メディカルセンター外来棟地下1階)



(株) ケア・テック岩手医大介護ショップ内丸は、医療用品・福祉用品をはじめとする、ストーマ装具・弾性ストッキング・医薬品第2類3類・医薬部外品化粧品等を販売しております。

店頭にはない商品のお取り寄せもいたしますので、お気軽にご来店ください。

営業時間

月~金 / 8:30 ~ 17:30
土・日・祝 / 定休日

TEL

019 - 651 - 6777



お知らせ 医大祭2023の開催について

今年は医大祭 2023 を開催します。11月4日(土)はCC(Cool and Cute)コンテストを、11月5日(日)は、お笑いライブを開催する予定です。他にも、オーケストラ部、軽音楽部による楽器演奏、D-CONNECT によるステージ発表、さんさ踊り部による演舞など、様々なステージショーを予定しております。皆様のご来場をお待ちしております。

テーマ「黎明 終わりなき逆境と共に歩む」

新型コロナウイルスの流行から約3年が経過し、社会全体が新たに動き出そうとしている中で私達も前に進みたいという思いを夜明けの意味を持つ「黎明」という言葉に込めました。しかしながら、感染症流行の影響は人的被害をもたらすだけでは留まらず、社会の構造や常識に至るまで様々な変化をもたらしたことは否定できません。そのような、歴史に残るほどの変化をした社会で前に向かっていくという意味をサブタイトルに掲げました。

■出店・出展情報

- 各研究室による学術展示及び公開実験
- 華道部による作品展術
- 各部活による食品の販売
- CCCC (Cool and Cute Contest Cafe)
- e-sports大会
- 他



Instagram



X (旧 twitter)

Kブロック外来 (麻酔科外来)

Kブロック外来は、医師7名、看護師4名、受付事務2名で構成され、主にペインクリニックと周術期サポートを行っている外来です。

ペインクリニックは、痛みを主訴とする患者さんの治療を行っています。治療中は、心身の苦痛を緩和することができるような対話を心がけ、患者さんからいただいた情報をもとに医師と連携して最善の治療・看護が提供できるように努めています。

周術期サポートは、全身麻酔で手術を受ける外科・泌尿器科疾患の患者さんを対象として実施しています。生活習慣の改善や手術・麻酔に対する不安を緩和し、安心して手術に臨んでいただけるよう患者サポートセンターと連携しながら、患者さんやご家族の方々に面談を行っています。

心身の苦痛を抱え受診されている方やこれから手術を受けるという不安を感じながら面談に訪れる患者さん、ご家族の方々に、外来のスタッフ一同、優しさと思いやりをもって看護を提供しています。

(主任看護師 西方 由希子)



西7階A病棟・MFICU病棟

西7A・MFICU (Maternal Fetal Intensive Care Unit) は、岩手県下における周産期医療の中核を担う総合周産期母子医療センターの機能を有する病棟です。MFICUは9床、西7Aは31床(新生児病床7床を含む)で、看護師12名、助産師40名、看護補助者1名、クラーク1名、母体搬送コーディネーター1名で運営しています。全国でも有数の規模・設備を誇り、県内医療機関との連携や周産期システムの中心的存在として、高度先進医療を実践しています。MFICUでは県内各地からハイリスク妊産褥婦を受け入れ、院外で発生した常位胎盤早期剥離や危機的な胎児機能不全による超緊急帝王切開(グレードA)にも対応しています。西7Aは妊産褥婦と新生児のケア、女性患者の入院を受け入れています。近年の少子化や核家族化により子育ての環境は厳しくなっており、

虐待などの社会問題も取り上げられていますが、退院後も安心して子育てができるよう地域と連携し、継続的な支援を行っています。日々、赤ちゃんとお母さん、女性に寄り添うケアができるよう努めています。

(主任看護師 小原 紀子)



岩手医科大学報編集委員

小川 彰	畠山 正充
影山 雄太	藤村 尚子
松政 正俊	高橋 慶
齋野 朝幸	阿部 俊
藤本 康之	杉下 佳子
白石 博久	石森 由樹
佐藤 泰生	菊池いな子
佐藤 仁	最上 玲子
藤澤 美穂	高橋 淳美
塩山 亜紀	阿部 祥子
細田留美子	

編集後記

今年、4年ぶりとなるオープンキャンパスが開催され、本号にその記事が掲載されています。4年前まで医学部の責任者をしており、いろいろと苦労した記憶がありますが、本当にこんなに沢山学生さん達が来ていたのだと懐かしく思いました。

これから少子化で学生数も全国的に減少していきますが、これからも全学一丸となつてこの困難な状況を打破し、オープンキャンパスを継続していきたいですね。

活気のある記事内容をご覧になっていたければ幸いです。

(編集委員 齋野 朝幸)

岩手医科大学報 第549号

発行年月日/令和5年9月30日

発行/学校法人岩手医科大学

編集委員長/小川 彰

編集/岩手医科大学報編集委員会

事務局/法人事務部 総務課

TEL. 019-651-5111 (内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷/河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

すこやか

スポーツ医学講座 No.112



臨床遺伝学科 教授 福島 明宗

遺伝学的検査とその取扱について

遺伝学的検査

ヒトの疾患の多くが、環境要因と遺伝的要因の双方の関与により発症します。さて遺伝的要因としてのヒトの遺伝情報ですが、技術面およびコスト面から長年に渡りその分析が困難でありました。しかし21世紀に入り、次世代シーケンシング（Next Generation Sequencing）の発達・普及に伴い、高速かつ安価に実施が可能となりました。ヒトの生殖細胞系列の遺伝子変異を明らかとする検査を「遺伝学的検査」と呼びます。現代医療の核となる個別化医療とポリジェニックリスクスコア（Polygenic Risk Score：多遺伝子スコアあるいは遺伝子リスクスコアとも呼ぶ）を元にした予防医学において、この「遺伝学的検査」およびそこから得られる遺伝情報は無くてはならない存在となっております。その結果、以前は特殊であったこれら遺伝学的検査結果は、今や数多の一般臨床検査と同様に医療現場に溢れてきております。これらの普及があまりに急激であったため、その保管や取り扱いについて、ある時は極めて厳重に、またある時は極めてずさんに取り扱われたりと、医療現場において混乱が起きました。医療連携が必要な現代医療において、臨床検査結果は、もはや1つの診療科内や一人の医師内で独占すべきものでは無くなっておりますが、その一方で遺伝情報、特に遺伝子の生殖細胞変異に関するものは、個人ないしは血縁家族における究極の個人情報であります。この両者の兼ね合いが、医療における利・活用の上で極めて難しいところではありますが、日本医学会ではこの件を考慮し、「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」を2022年3月に改訂しました。既に御覧になられた方も多いかと思いますが、大切な部分をご紹介します。

医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン

ガイドラインの「はじめに」では、「医療安全およびチーム医療の観点から、遺伝情報を含むすべての診療記録はアクセスが必要な全ての医療従事者に適切に共有される必要がある」としました。診療記録への記載に関しても「原則として他の診療情報と同様に、診療記録に記載する」とあります。この他にもこの紙面では紹介仕切れない大切な内容が記載されておりますので、皆様には是非こちらの新ガイドラインの通読をお願いします。なお従来利用されていた遺伝医学関連10学会による「遺伝学的検査に関するガイドライン」は廃止となりました。

さいごに

このガイドラインを契機に遺伝情報の医療における利・活用がスムーズに進んで行くのは大変喜ばしいことである反面、診療情報管理の観点からは更なる注意喚起、意識改革が必要になってくることを強調せねばなりません。一言で言えば外部への情報漏洩は、いろんな点で大変な事になると言うことです。この件に関しては、医療情報管理の観点からまた改めて述べていきたいと思っております。

日本医学会 医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン：

https://jams.med.or.jp/guideline/genetics-diagnosis_2022.pdf

